



# Sun Fire™ V20z および Sun Fire V40z サーバリリースノート

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054 U.S.A.  
650-960-1300

部品番号 817-6136-11  
2004 年 5 月 改訂 A

本書に関するコメントは、次の宛先にお送りください。 <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア（フォントに関するテクノロジーを含む）は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire、Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザインターフェイスは、Sun Microsystems, Inc. がユーザおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。Sun 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。Sun 社は、Xerox グラフィカルユーザインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する Sun 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は Sun 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「あるがまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

Sun Fire V20z および Sun Fire V40z インストール情報	2
Sun Fire V20z サーバおよび Sun Fire V40z サーバに関する重要事項と考慮点	3
サービスプロセッサの設定	3
9600 ボーを超える速度ではシリアルコンセントレータが動作しない	3
SP プラットフォームのシャットダウンまたは電源切断再投入コマンドには -f 引数が必要	4
SP イベントログは、一杯になると自動的にレコードを削除	5
LSI U320 PCI カードを追加すると無害なエラーが発生	6
一部のドライブを使う外部アレイを LSI U320 PCI カードと併用できない	6
OpenIPMI Linux カーネルドライバがディスクアクセス中にコンフリクト	7
トランスレーションルックアサイドバッファ (TLB) を再ロードすると、一部の Linux ソフトウェアでエラーが発生	7
PCI カードを追加すると、POST 時にエラーメッセージが表示される	8
Linux オペレーティングシステムの考慮点	9
Sun Fire V20z サーバに関する重要事項と考慮点	11
イーサネットポートのラベル	11
サーバの上部カバーの取り付け	12
コンソールのリダイレクションボーレートを 115.2K に設定すると、POST 中にシステムが一時停止する	12
Sun Fire V20z Clear-CMOS ジャンパの位置	14

Solaris オペレーティングシステムの考慮点	15
Sun Fire V40z サーバに関する重要事項と考慮点	16
電源の1つが接続されていないと、SP イベントログメッセージが記録される	16
Sun Fire V40z Clear-CMOS ジャンパの位置	17

# Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバリリースノート

---

このリリースノートは、次のセクションから構成されます。

- 「Sun Fire V20z および Sun Fire V40z インストール情報」 (2 ページ)
- 「Sun Fire V20zサーバおよびSun Fire V40zサーバに関する重要事項と考慮点」(3ページ)
- 「Sun Fire V20z サーバに関する重要事項と考慮点」 (11 ページ)
- 「Sun Fire V40z サーバに関する重要事項と考慮点」 (16 ページ)

---

# Sun Fire V20z および Sun Fire V40z インストール情報

サービスプロセッサやネットワーク共有ボリューム (NSV) ソフトウェアを設定しなくても、オペレーティングシステムをサーバにインストールできます。ただし、サービスプロセッサと NSV ソフトウェアを設定しない限り、システムのリモート管理機能や診断テストは使えません。

- ネットワーク共有ボリュームファイルは、付属の「Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Network Share Volume CD」(705-0970) に含まれています。
- オペレーティングシステムのドライバとその他のサポートファイルは、付属の「Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD」(705-0971) に含まれています。この CD には、次のマニュアル (PDF 形式) も含まれています。
  - *Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバインストールガイド* (817-6146)
  - *Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバLinux オペレーティングシステムインストールガイド* (817-6156)
  - *Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers User Guide* (817-5248)
  - *Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers, Server Management Guide* (817-5249)
  - *Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバリリースノート* (817-6136)

次の製品関連サイトには、最新の情報やダウンロード情報が掲載されています。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/>

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/>

次の製品マニュアルサイトには、最新バージョンのユーザマニュアル、サービスマニュアル、およびリリースノートが掲載されています。

<http://www.sun.com/products-n-solutions>

[/hardware/docs/Servers/Workgroup\\_Servers/Sun\\_Fire\\_V20z-V40z/](http://www.sun.com/hardware/docs/Servers/Workgroup_Servers/Sun_Fire_V20z-V40z/)

---

# Sun Fire V20z サーバおよび Sun Fire V40z サーバに関する重要事項と考慮点

## サービスプロセッサの設定

サービスプロセッサ (SP) は、サーバを初期設定する際にユーザ名とパスワードでセキュリティ保護しておく必要があります。SP をセキュリティ保護しないと、サーバの SP ネットワークインターフェイスを使ったサービス妨害攻撃を受ける可能性があります。SP の設定と初期管理者アカウントの設定手順については、『*Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバインストールガイド*』をご参照ください。

## 9600 ボーを超える速度ではシリアルコンセントレータが動作しない

本サーバに 9600 より大きいボーレートを設定すると、フレーミングエラーが発生し、動作しなくなるシリアルコンセントレータが一部にあります。この問題は、本サーバに非常に高速のプロセッサおよび 16 バイトの FIFO 付き UARTS が搭載されており、送信帯域幅が完全に飽和してしまうために発生します。つまり、隣り合う非同期バイト間に空のスペースがなく、バイトのストップビットの後に、次のバイトのスタートビットがすぐに続いている状態です。

その結果、この処理の受信側の端末（またはその他のデバイス）は、1 バイトも逃さずに処理できるだけの速度を備えている必要があります。そうでない場合、シリアルコンセントレータは受信側のオーバーフローをクリアし、受信を再開する際に、スタートビットとストップビットの位置を検出できなくなります。このため、際限のないフレーミングエラー（検出されるものもされないものもある）が発生します。

この問題を解決するには、次の操作を行います。

1. Sun Fire V20z/V40z サーバで次の手順を行います。
  - a. F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを起動します。
  - b. [Advanced] メニューで [Console Redirection] サブメニューを選び、[Enter] を押します。
  - c. [Console Redirection] メニューで、[Baud Rate] オプションを選び、希望のボーレートを指定します（デフォルトは 9600）。
  - d. [Flow Control] オプションを選び、CTS/RTS を指定します。

- e. [Console Type] オプションを選び、希望の端末タイプを指定します。
  - f. F10 キーを押して変更を保存します。
2. シリアルコンセントレータのコンソールで次の手順を行います。
    - a. 希望のポート番号を選びます。
    - b. 本サーバに指定したボーレートと同じボーレートを選びます。
    - c. [Flow Control] オプションには [Hardware] を選びます。
    - d. [DCD Sensitive] オプションには、ご自分の設定に応じて [Yes] または [No] を選びます。
    - e. 適切な RJ-45 メス / DB-9 メスアダプタを使っていることを確認します (シリアルコンセントレータのユーザマニュアルをご参照ください)。
  3. それでもフレーミングエラーが発生する場合は、本サーバとシリアルコンセントレータの間のケーブル配線を点検してください。

## SP プラットフォームのシャットダウンまたは電源切断再投入コマンドには -f 引数が必要

プラットフォームのシャットダウンや電源切断再投入を正しく行うには、サービスプロセスのコマンドラインから投入するコマンドに -f 引数を指定する必要があります。

サーバをシャットダウンする SP コマンドのシンタックスは次の通りです。

```
platform set power state off -f
```

サーバを電源切断再投入する SP コマンドのシンタックスは次の通りです。

```
platform set power state cycle -f
```



## SP イベントログは、一杯になると自動的にレコードを削除

SP イベントログ (IPMI SEL ではなく) は、ログが一杯になると一部のレコードを自動的に削除します。その際、レコードが削除されたことを示す次のログエントリが生成されます。

```
357 01/01/2004 13:49 SP critical Active Events High Water Mark Exceeded
```

すべての SP イベントログエントリを削除するコマンドのシンタックスは次の通りです。

```
sp delete event -a
```

SP コマンドの詳細については、『Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers, Server Management Guide』をご参照ください。

## LSI U320 PCI カードを追加すると無害なエラーが発生

LSI U320 PCI カード (LSI22320-R) を追加してから再起動すると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Initializing.....  
Adapter configuration may have changed, reconfiguration is  
suggested!
```

このメッセージは無視してかまいません。サーバは正常に起動します。デフォルト設定に戻した場合でも、上記のカードを使ったときはこのメッセージが表示されます。

## 一部のドライブを使う外部アレイを LSI U320 PCI カードと併用できない

外部 SCSI アレイをアドオンの LSI U320 PCI カード (LSI22320-R) に接続する場合、次のドライブとファームウェアレベルはサポートされません。

以下に示すファームウェアレベルを使ったこれらのタイプのドライブでは、データ不一致の問題の発生が確認されています。

ドライブ	ファームウェアレベル
Seagate ST336607LSUN36G	0407 以前
Seagate ST336753LSUN36G	0349 以前
Seagate ST373307LSUN72G	0407 以前
Seagate ST373453LSUN72G	0349 以前

これらのドライブのファームウェアを、0507 (10K rpm ドライブ) / 0449 (15K rpm ドライブ) 以降にアップデートするようお勧めします。

# OpenIPMI Linux カーネルドライバがディスクアクセス中にコンフリクト

本サーバでインバンド IPMI 機能を使う場合、ディスク（フロッピーディスク）にアクセスする前に OpenIPMI Linux カーネルドライバをアンロードする必要があります。ディスクにアクセスする前に OpenIPMI Linux カーネルドライバをアンロードしておかないと、OpenIPMI Linux カーネルドライバによって処理されるディスクへの書き込み・管理データが壊れます。

- OpenIPMI Linux カーネルドライバをアンロードするには、ルートとしてログインし、次のコマンドを実行します。

```
# rmmod ipmi_kcs_drv
# rmmod ipmi_devintf
# rmmod ipmi_msghandler
```

- ディスクに無事アクセスできたら、次のコマンドを実行してインバンド IPMI 機能を回復します。

```
# modprobe ipmi_devintf
# modprobe ipmi_kcs_drv
```

## トランスレーションルックアサイドバッファ (TLB) を再ロードすると、一部の Linux ソフトウェアでエラーが発生

[BIOS Advanced] メニューに、「No Spec. TLB Reload」というオプションがあります。TLB を再ロードできるよう、この設定はデフォルトで無効にされています。

このデフォルト設定では、Red Hat Linux の 64 ビット版および SUSE Linux (Service pack 1 を含む) の搭載されているシステムで、次に示すようなエラーが観察されています。

```
Northbridge status a60000010005001b
GART error 11
Lost an northbridge error
NB status:unrecoverable
NB error address 000000037ff07f8
Error uncorrected
```

このようなエラーを避けるには、TLB を再ロードしないように設定する必要があります。そのためには、次の手順で操作を行います。

1. サーバを再起動し、F2 を押して BIOS セットアップを開始します。
2. [Advanced] > [Chipset Configuration BIOS] メニューに進みます。

3. 矢印キーを使って、「No Spec. TLB Reload」オプションまでスクロールダウンし、設定を「Disabled」から「Enabled」に変更します。

これにより、TLB を再ロードできなくなり、上記のようなエラーメッセージを避けることができます。

## PCI カードを追加すると、POST 時にエラーメッセージが表示される

PCI カードをサーバに追加すると、電源投入時の自己診断テスト (POST) 中に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Error Message:Expansion ROM not initialized.  
PCI Mass Storage Controller in Slot 01  
Bus:02, Device:05, Function:00
```

この時点で F1 キーを押せば、OS は正常にロードされます。

### *エラーメッセージを表示させないために、オプションの ROM スキャンを無効にする*

今後このメッセージを表示しないようにするには、POST 中にこのエラーメッセージが表示されたときに次の手順を行ってください。

---

**ご参考：** この手順を行うと、このアドインカードからは起動できなくなります。このエラーメッセージを表示しないようにし、しかもこのアドインカード (SCSI 制御カードにのみ該当) から起動したい場合は、別の方法「ブート可能な SCSI 制御カードでオプションの ROM スキャンを無効にする」(9 ページ) をお使いください。

---

1. F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを起動します。
2. [Advanced] メニューで [PCI Configuration] サブメニューを選びます。
3. PCI デバイススロット 1 または 2 を選びます (新しいデバイスをインストールしたスロットを選びます)。
4. [Option ROM Scan] の設定を [Disabled] に変更します。
5. F10 キーを押して変更を保存します。

今後の POST では、エラーメッセージは表示されません。

## ブート可能な SCSI 制御カードでオプションの ROM スキャンを無効にする

1. F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを起動します。
2. [Advanced] メニューで [PCI Configuration] サブメニューを選びます。
3. [Embedded Broadcom Gbit 0] または [Embedded Broadcom Gbit 1] を選びます (ネットワーク接続されている PXE サーバに接続しないポートを選択)。
4. [Option ROM Scan] の設定を [Disabled] に変更します。
5. F10 キーを押して変更を保存します。

今後の POST ではエラーメッセージは表示されず、SCSI 制御カードから起動することもできます。

---

## Linux オペレーティングシステムの考慮点

サポートされているバージョンの Linux オペレーティングシステムを使用している Sun Fire V20z サーバおよび Sun Fire V40z サーバに関する不具合と考慮点を、このセクションにリストします。いずれの項目についても、今後のアップデートは次の製品ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/>

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/>

- Red Hat Enterprise Linux 3 に付属している Trident サーバビデオドライバでは、特定の条件下でシステムロックアップが発生する可能性があることが報告されています。これらの条件については、オンラインの Red Hat の Bugzilla データベースに記載されています。  
[https://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show\\_bug.cgi?id=113533](https://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=113533)

このロックアップ状況を避けるには、RHEL 3 にバンドルされている VESA X サーバビデオドライバを使うようお勧めします。

インストール時に VESA ドライバを選択するには、通常通りにインストール作業を進め、[Graphical Interface (X) Configuration] 画面が表示されたら、[Other drivers] メニューを展開し、[VESA driver (generic)] を選びます。

インストール後に VESA ドライバを選択するには、Trident ドライバから VESA ドライバに切り替えます。手順の詳細については、Red Hat Enterprise Linux のマニュアルをご参照ください。

- Red Hat Enterprise Linux 3 の 32 ビット版では、4GB 以上の物理メモリがインストールされていても、4GB 以上は認識されません。これは、ハードウェアではなくデフォルトカーネルの制限です。

その他の 32 ビット版 Linux の中でも、デフォルトカーネルの制限のために、4GB より大きいメモリの認識に問題のあるものがあります。お使いの OS で 4GB より大きいメモリが認識されない場合は、OS の販売元に連絡し、メモリ設定に関して適切なサポートを受けてください。
- Linux サーバ管理については、カスタム化 OpenIPMI Linux カーネルドライバをインストールする必要があります。このカスタム化 OpenIPMI ドライバのインストール方法の詳細については、『*Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers, Server Management Guide*』をご参照ください。
- オペレーティングシステムの中には、CD ではなく DVD 媒体によるディストリビューションもあります。DVD 媒体からソフトウェアをインストールするには、オプションの Sun Fire V20z サーバ DVD-ROM / ディスケットドライブ (X9260A) をお求めください (Sun Fire V40z サーバでは DVD / ディスケットドライブしかオプションがありません)。
- X windows ベースのインストールユーティリティを使って CD 媒体から SUSE Linux Enterprise Server 8 をインストールすると、インストールプロセスのポストインストール設定中に問題が発生することがあります。ポストインストール設定中、X windows ベースのインストールユーティリティは、プライマリコンソールにコントロールを戻し、ps コマンドに関するエラーメッセージを表示することがあります。エラーメッセージが表示された場合は、キーボードで CTRL-ALT-F7 を同時に押すと、X windows ベースのインストールユーティリティにコントロールを戻すことができます。そうすれば、SUSE Linux Enterprise Server 8 で通常のポストインストール設定を継続できます。

# Sun Fire V20z サーバに関する重要事項と考慮点

このセクションでは、Sun Fire V20z サーバに関する現時点での既知の不具合と考慮点について説明します。

## イーサネットポートのラベル

サーバの背面パネルにあるイーサネットポートのラベルには十分ご注意ください。図 1 に示すように、インターフェイス eth1 と eth0 はそれぞれサーバ背面の右隅に「1」（上）と「0」（下）でラベル表示されています。

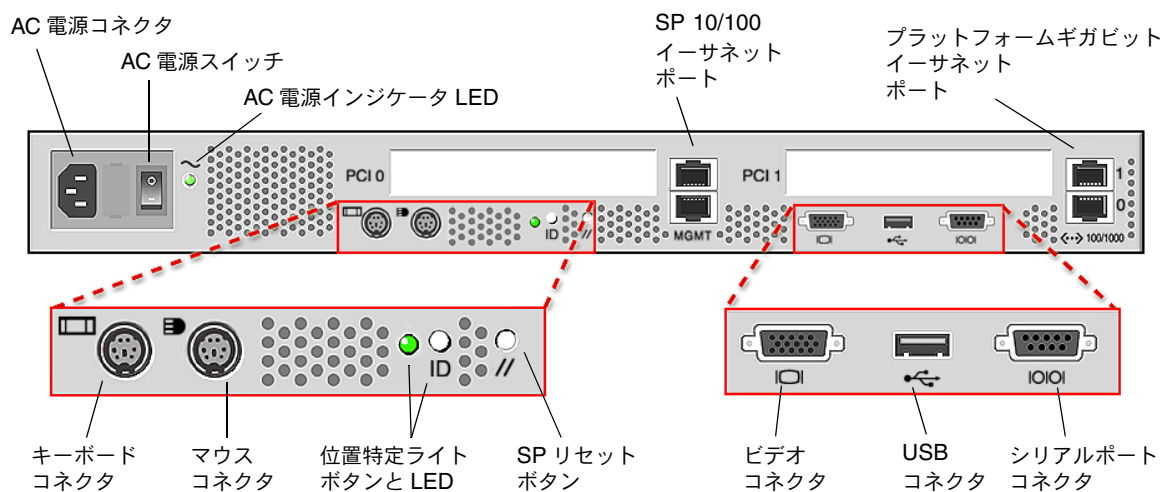


図 1 Sun Fire V20z サーバの背面パネル

## サーバの上部カバーの取り付け

コンポーネントの設置後、Sun Fire V20z サーバに上部カバーを取り付けるときは、カバーまたはサーバのコンポーネントを破損しないよう注意を払ってください。

カバーを取り付ける前に、PCI カードから周辺機器のすべてのケーブルを取り外します。PCI カードのケーブルが接続されたままでシステムカバーを取り付けると、システムカバーの端にある縁とその縁内にある EMC フォームガasket に、PCI カードコネクタの一部が挟まることがあり、システムカバーのシールを変形させたり、コネクタのラッチを破損する可能性があります。

電源ケーブルが正しく接続されていることを確認します。電源ケーブルが正しく接続されていないと、システムカバーがきちんと閉まらなかったり、簡単に閉まらないことがあり、システムの性能に影響することがあります。

電源ケーブルは、カバーの取り付けを妨げないように配線し、押し下げる必要があります。電源ケーブルは、ケーブルとケーブル用固定具が、電源の上面より下に来ないように位置に納める必要があります。ケーブル用固定具は、ケーブル自体から突き出さないよう下方向に回転させてください。

## コンソールのリダイレクションボーレートを 115.2K に設定すると、POST 中にシステムが一時停止する

Sun Fire V20z サーバに合計 4GB を超えるメモリが搭載され、かつシリアルコンソールコンソールのリダイレクションボーレートが 115.2K に設定されていると、電源投入時の自己診断テスト (POST) のメモリテスト中にシステムが一時停止することがあります。

シリアルコンソールコンソールのリダイレクションボーレートを変更するには、次の手順で操作を行います。

1. プラットフォーム OS の起動中に、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを起動します。
2. [Advanced] メニューで [Console Redirection] サブメニューを選びます。
3. ボーレートを選びます。

---

**ご参考：** ボーレートに 115.2K を指定する前に、システムのメモリが合計 4GB 以下であることを確認してください。

---

4. F10 キーを押して変更を保存します。



一時停止状態から復帰するには、次の操作を行います。

---

**ご参考：** POST のメモリテスト中にシステムが一時停止した場合は、次の手順に従って CMOS 設定をクリアし、一時停止状態から復帰する必要があります。

---

1. サーバの前面パネルにあるプラットフォーム電源ボタンを押して、プラットフォームの電源をオフにします。
2. サーバから上部カバーを取り外します。
3. **Clear CMOS ジャンパ J110** を探します。  
「Sun Fire V20z Clear-CMOS ジャンパの位置」(14 ページ) をご参照ください。
4. **J110** のジャンパをピン 2+3 からピン 1+2 に移動します。  
「Sun Fire V20z Clear-CMOS ジャンパの位置」(14 ページ) をご参照ください。
5. サーバの前面パネルにあるプラットフォーム電源ボタンを押して、プラットフォームの電源をオンにします。
6. POST のメモリテストに無事合格したら、プラットフォーム電源ボタンを押して、プラットフォームの電源を再びオフにします。
7. **J110** のジャンパをピン 1+2 からピン 2+3 に戻します。
8. サーバに上部カバーを取り付けます。
9. サーバの前面パネルにあるプラットフォーム電源ボタンを押して、プラットフォームの電源をオンにします。

## Sun Fire V20z Clear-CMOS ジャンパの位置

Sun Fire V20z マザーボード上の Clear-CMOS ジャンパ (J110) の位置を下図に示します。

- ジャンパのデフォルトの位置はピン 2+3 で、「Clear-CMOS-Removed」の設定です。この設定では、サーバを再起動するたびに CMOS 設定が維持されます。
- ジャンパをピン 1+2 に移動すると、「Clear-CMOS-Installed」の設定になります。この設定では、サーバを再起動するたびに CMOS 設定がクリアされます。

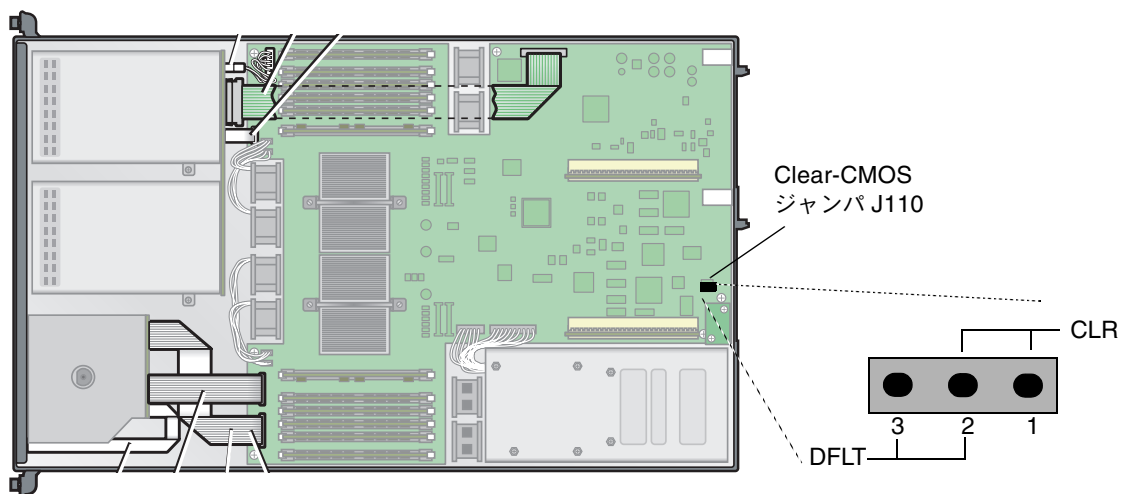


図 2 Sun Fire V20z マザーボード、Clear-CMOS ジャンパ J110 の位置

---

# Solaris オペレーティングシステムの考慮点

Solaris™ 9 4/04 オペレーティングシステムを搭載している Sun Fire V20z サーバおよび Sun Fire V40z サーバに関する不具合と考慮点を、このセクションにリストします。いずれの項目についても、今後のアップデートは次の製品ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/>

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/>

本サーバ製品と互換性のある Solaris のバージョンは Solaris 9 4/04 以降です。ただし、一部の機能は、本サーバの初期製品リリース後に導入される予定です。

- RAID 機能は初期リリースではサポートされていません。
- ECC Check ドライバと IPMI のサポートファイルは、付属の「Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD」に含まれています。
- VESA ドライバは、グラフィックスを必要とする Solaris インストールに使用します。モニタを使って Solaris 9 4/04 をインストールする場合は、kdmconfig で「VESA Generic Driver for VESA Compatible Video Cards」を選んでください。
- USBマウスをサーバに接続するときに問題が発生することがあります。kdmconfigユーティリティが、USB マウスを検出できず、ビデオが機能しないことがあります。この問題を避けるには、kdmconfig の [Pointing Device Selection] 画面で、手動で USB マウスを選んでください。
- Solaris 起動ディスクは SCSI ターゲット 0 に限定されています。
- オペレーティングシステムの中には、CD ではなく DVD 媒体によるディストリビューションもあります。DVD 媒体からソフトウェアをインストールするには、オプションの Sun Fire V20z サーバ DVD-ROM / ディスケットドライブ (X9260A) をお求めください (Sun Fire V40z サーバでは DVD / ディスケットドライブしかオプションがありません)。
- 本サーバにはオンボード UHCI ハードウェアは含まれていません。以前の Solaris X86 環境で動作するよう作成されている USB ドライバによって動作するデバイス (オリジナルの USB A フレームワークを使って) には、次のいずれかが必要です。
  - 1) 他社の UHCI ベース USB PCI カード (既存のドライバに使用) または
  - 2) オンボード OHCI ハードウェアで動作する USB A 1.0 ドライバ
- 現行バージョンの Solaris ソフトウェアではネットワークインターフェイス LED が正しく機能しないことがありますが、ネットワーク接続は正常に機能します。
- 本サーバに対する Solaris x86 ソフトウェアのパッチの最新バージョンは、次のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/>  
<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/>

---

## Sun Fire V40z サーバに関する重要事項と 考慮点

### 電源の1つが接続されていないと、SP イベントログ メッセージが記録される

Sun Fire V40z サーバに電源が2個取り付けられている場合は、両方の電源に AC 電源コードを接続してサーバを起動してください。

どちらかの電源コードが接続されていないと、SP イベントログに、電源が接続されていないという内容のメッセージが記録されます。このメッセージは無視できますが、ログの他のイベントが読めなくなる可能性があります。

関連項目について、「SP イベントログは、一杯になると自動的にレコードを削除」(5 ページ) もご参照ください。

## Sun Fire V40z Clear-CMOS ジャンパの位置

Sun Fire V40z マザーボード上の Clear-CMOS ジャンパ (J125) の位置を下図に示します。このジャンパを使うと、特定の条件でサーバが一時停止した場合に CMOS をクリアできます。

- ジャンパのデフォルトの位置はピン 2+3 で、「Clear-CMOS-Removed」の設定です。この設定では、サーバを再起動するたびに CMOS 設定が維持されます。
- ジャンパをピン 1+2 に移動すると、「Clear-CMOS-Installed」の設定になります。この設定では、サーバを再起動するたびに CMOS 設定がクリアされます。

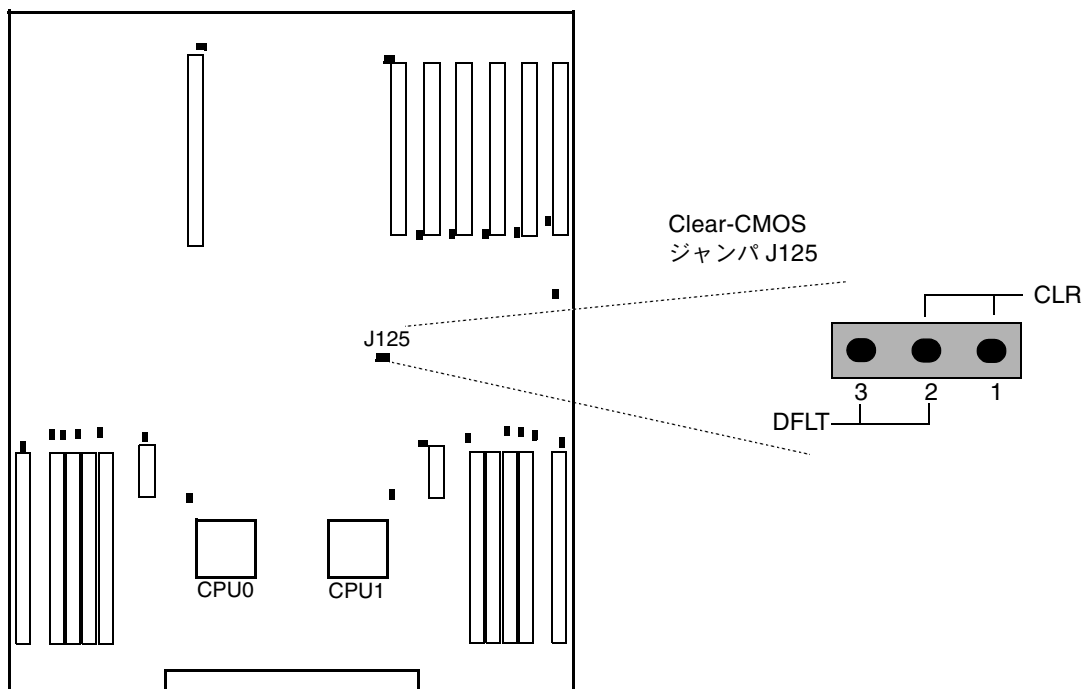


図 3 Sun Fire V40z マザーボード、Clear-CMOS ジャンパ J125 の位置

